

VI-266 阪神高速道路3号神戸線東尻池交差点付近での鋼桁の復旧工事

阪神高速道路公団	正会員	木下	義康
阪神高速道路公団		有川	次郎
阪神高速道路公団		近藤	康男
阪神高速道路公団		中村	俊策

1. まえがき

平成7年1月17日に発生した兵庫県南部地震により、阪神高速道路3号神戸線の神戸市長田区東尻池交差点付近（図-1）では、3径間連続鋼床版箱桁が支承部分で破壊して、桁が移動したために、箱桁および橋脚に支承が突き刺さった状態になった。当該橋梁の路下は、国道2号線の主要交差点（東尻池交差点）上にあり、交通閉鎖が困難であり、復旧工事を行うには非常に厳しい現場条件である。本報告は、地震により複雑に損傷した鋼桁を国道2号線の主要交差点上という厳しい現地条件の中で復旧した工事について述べるものである。

2. 損傷状況

当該橋梁（神P-588～P-591）は、上下線分離構造が一体区間に移行する区間で上部工は3径間連続鋼床版箱桁2連、下部工はラーメン型鋼製橋脚である。

主な損傷は、上下線とも支承（ピン支承）が破壊したことから、中間支点（P-589、P-590）上では、主桁に下査部分が、また鋼製橋脚末端には上査が突き刺さった状況となった。上り線は、中間支点で橋軸直角方向（北側）に約50cmずれ、下り線も同様に中間支点で約70cm橋軸直角方向（北側）に移動していた（図-2）。

3. 工事概要

復旧工事を施工するに際しては、入念な現地調査を行い鋼桁¹⁾および鋼製橋脚²⁾について損傷の箇所、状態、大きさ等によりそれぞれタイプ別に分類して補修方法の決定を行った。補修工事の手順としては、まず損傷した箱桁を仮受けバント上よりジャッキアップして作業空間を確保

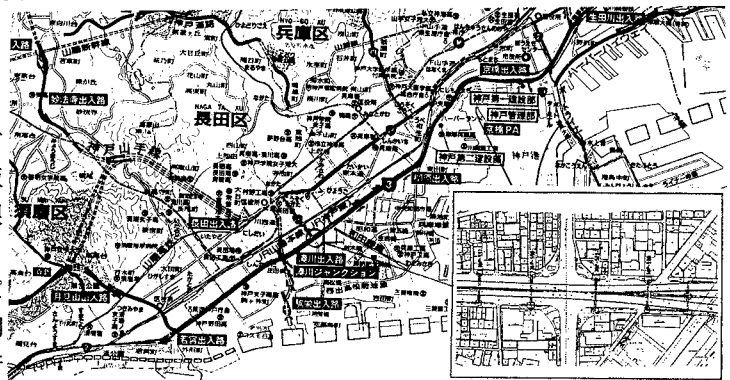


図-1 施工位置図

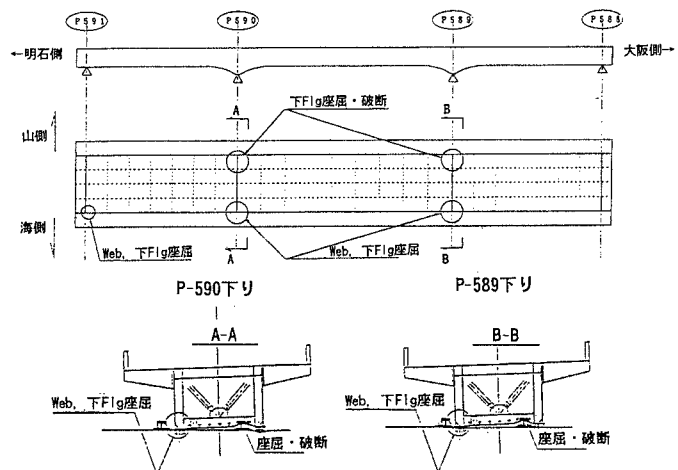


図-2 損傷状況図（神P-589～P-591下り）

キーワード：兵庫県南部地震、復旧工事、無応力化

〒541 大阪市中央区久太郎町4-1-3 TEL06-252-8121 FAX06-252-7414

